

タイインターン報告書 法文学部人文学科3年 野崎翔太

インターンの報告に何を文字に起こせばいいのか、インターンで過ごした時間があまりにも濃いもので逆に困ってしまうほどです。ここではインターン全体を通して振り返った思いを、少しばかり書き記したいと思います。

12月の選考から3月末の報告会まで、タイインターンに関わった約4ヶ月間を振り返ると、自分の人生を大きく変える出会いと経験に満ち満ちた時間だったなと思います。ありふれた言い回しかもしれないし、まさかこんなことになるとは思っていませんでしたが、本当に人生を変えるインターンだった、心からそう思っています。特に鹿児島県産のお茶を手にとタイや他3ヶ国で過ごした30日間は毎日が新しい出会いと経験の連続で、これほどまでに心震える瞬間はなかった、そんな溢れる日々でした。



タイ・チェンマイでお腹を満たしてくれた
な充実感に
行きつけの料理屋のおじちゃん



出国初日、乗り継ぎの香港で仲間2人と

インターンを通して得たものもあらゆる面でたくさんあります。まずひとつは「仲間」です。4ヶ月間、楽しい時間もあれば辛い時間もありません。どんな時間も一緒に共有することができる仲間の存在というのはとても大きく、心の支えになっていました。インターンを終えた今でも、この仲間たちとの繋がりはかけがえのないものになっています。

ふたつ目は「自分らしく生きるとは」という問いです。これは今回のインターンを通して与えて頂いていた「働くとは」という問いをさらに掘り下げたような問いです。インターン期間中、「自分の意図・目的は何か」「自分は何を大切にしたいのだろう」のように自分自身と向き合う時間がとても多くありました。インターンを終えた今でも「自分らしい生き方」の答えは出ていませんし、この問いに向き合い続けています。それでも、この「自分らしく生きるとは」という問いにきちんと向き合いながら生きることがどれだけ豊かなことか、それに気付かせて頂いたことは、このインターンを通して得ることができた大きな成長のひとつです。

インターンについて話したいことはまだまだたくさんありますが、この報告を締めくくるにあたって最後に書き記しておきたいのは感謝の気持ちです。NPO法人GROAD、株式会社下堂園をはじめ、このインターンを通して出会うことができた全ての方々へ、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。ここに書き記すことができなかったことも含めて、次は自分が誰かの新しい一歩を支えることができるように、このインターンで得たものを活かしていきたいと思います。ありがとうございました。